

2024年度 一般財団法人たんぽぽの家 事業報告

エイブル・アート・プロジェクト

アートプロジェクト企画運営

1) 知財学習推進プロジェクト

今年度は、厚生労働省「障害者芸術文化活動普及支援事業」の全国各地の支援センターと連携しながら、オンラインや対面にて知財レクチャーやゲームワークショップに取り組んだ他に、霞が関で子ども対象の知財ゲームワークショップを行ったり、奈良県の美術部生徒向けの知財研修を行ったりすることで、児童、生徒の知財学習のきっかけをつくった。大学の授業やオンライン講座も担当した。また、女性起業家向けのセミナーで知財ゲームワークショップを行うなど、研修対象の広がりを見せた。

①著作権の保護：著作権の基礎知識と商品化にあたって気を付けること

千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画 人材育成講座のオンデマンド講座の講師に招聘され、オンラインレクチャーを配信した。

・日時 4月1日(土)～2025年2月29日(木)

②令和6年度文部科学省こども霞が関見学デー「カードゲームで著作権を学ぼう！」

昨年度に引き続き、霞が関の省庁がいっせいに夏休み中のこどもに向けて庁舎を開放する「こども霞が関見学デー」において文部科学省の文化庁著作権課の担当ブースで、カードゲーム「知財でポン！」のワークショップを行った。ゲームワークショップの隣では、簡単なQ&A方式の紙芝居的なミニゲームも行い、常に子どもたちで賑わっているイベントとなった。

・日時 8月7日(水) 8日(木)

・会場 旧文部省庁舎 6階 第2講堂

③うみのもり企画 人材育成講座「著作権を学ぶ：『知財ファースト主義』で行きましょう！」

令和6年度千葉県障害者芸術文化活動支援事業(主催：千葉県)うみのもり企画 人材育成講座において知財研修を行った。オンラインレクチャー配信の内容をさらに深めるかたちでの事例紹介を行った。

・日時 8月22日(木)

・会場 千葉県立美術館 研修室

④「知的財産権」を学ぶゲームワークショップ～「知財でポン！」の体験～

昨年度に引き続き、岩手県障がい者芸術活動支援センター かねあると主催の「創作活動に関する権利保護研修会」の講師に招聘され、オンラインによるゲームワークショップを行った。

・日時 9月5日(木)

⑤あいち・ウーマノミクス推進事業「ヒトハナ」セミナー講師

愛知県 経済産業局 産業部 産業政策課 委託事業で女性起業家支援プログラムを実施する「ヒトハナ」の鈴木恵美弁護士の講座「知財の基礎」に、知財ゲームファシリテーターとして参画した。

・日時 10月11日(金)

・会場 ウィンクあいち 1309号室

⑥オンライン研修 芸術活動支援のためのプログラム「身近な事例から学ぶ、知的財産権」

昨年度に引き続き、滋賀県障害者芸術文化活動支援センター事業(主催:アール・ブリュットインフォメーション&サポートセンター)のオンライン研修会でレクチャーを行った。

・日時 12月5日(木)

⑦愛知淑徳大学ゲスト講義

鈴木恵美弁護士担当の必修科目「知的財産権」のゲスト講師に招聘され、同大学創造表現学部の1年生を前に、たんぼぼの家の活動と知財学習推進プロジェクトについて講義を行った。

・日時 12月28日(水) 第4限と第5限

・会場 愛知淑徳大学 長久手キャンパス

⑧アートサポート養成講座「著作権セミナー『知財でポン!』」

令和6年度 障害者芸術文化活動普及支援事業(主催:FACT 福岡県障がい者文化芸術活動支援センター)アートサポーター養成講座において、著作権についての座学とカードゲーム「知財でポン!」のワークショップを行った。障害のある人も参加し、楽しみながら学べる知財学習の場となった。

・日時 2025年1月23日(木)

・会場 アクロス福岡(601会議室)

⑨令和6年度奈良県高等学校美術・工芸教育研究会及び奈良県高等学校文化連盟美術・工芸部会による生徒研修

第32回奈良県高校生アートグランプリの生徒研修において、奈良県下の美術部生徒を対象に、著作権講座を行った。100人を超える受講があり、著作権に関する関心の高さが感じられた。

・日時 2025年1月30日(木)

・会場 生駒市芸術会館美楽来

⑩京都芸術大学 藝術学会「創作者の権利を活用し社会とつながる：守った方がイイ！芸大生の著作権入門」の授業にゲスト出演

京都芸術大学芸術教育研究センターのもとで運営される一般公開講座（藝術学会）の「創作者の権利を活用し社会とつながる：守った方がイイ！芸大生の著作権入門」のなかの授業の一部として、「著作権を通じた社会への貢献」をテーマにしたレクチャーをオンラインを通して行った。

・日時 2025年2月2日（日）

⑪cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会「表現と知的財産権について学ぼう」

令和6年度福島県障がい者芸術文化活動支援センター事業（主催：社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館）の福祉と表現にまつわる研修会において、表現と知的財産権についてのレクチャーとグループディスカッション、カードゲーム「知財でポン！」のワークショップを行った。静岡県からの参加者もあり、学ぶ意欲の高い方々が集まった会だった。

・日時 2025年3月11日（火）

・会場 あさかホスピタル コリブリホール

2) Art for Well-being

～心身機能の変化に向きあう文化芸術活動の継続支援と社会連携～

2022～2023年度の取り組みをとおして見えてきた課題として、AIやMRなどのテクノロジーと福祉現場を結びつけて考える機会が少ない、施設や団体の中で継続的な活動につながらない、クリエイターや技術者にとって福祉に関わるハードルが高い、といった課題が挙げられる。これらに対して、①普及活動 ②人材育成 ③社会連携の促進の事業を実施した。（文化庁委託事業「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」）

①普及活動：公共施設・商業施設における普及

2023年度の先進事例をもとに、AIやMRなどのテクノロジーを表現とケアの現場に活かした事例を体験できる機会と、アート・ケア・テクノロジーに関心のある人たちがコミュニティ形成できる場所をつくり今後の先進事例づくりの実践先を開拓することを目的として、体験会や上映会などを実施した。

・時期／場所 [1]上映会&トークイベント

6月29日（土） 会場：FabCafe Kyoto（京都府京都市）36名

[2]体験会&フォーラム&上映会

9月14日（土） 会場：山口情報芸術センター[YCAM]（山口県山口市）82名

[3]公開実験ワークショップ

2025年1月18日（土） 会場：東十条ふれあい館（東京都北区）27名

[4]オンライン研究会

5月10日（金）16日（木）21日（火）5月31日（木）

参加者／390名（53名+97名+103名+137名）

②人材育成：重度障害のある人を支援する施設におけるテクノロジー活用人材の育成

福祉施設に呼びかけて、施設の中で継続的な活動につなげるための育成プログラムを実施した。

- ・時期／場所 [1]重症心身障害児施設 四天王寺和らぎ苑（大阪府富田林市）
 - 7月6日（土）
 - 12月17日（火）
 - 2025年2月6日（木）
 - 2025年3月1日（土）
- [2]児童教育施設 キッズドームソライ（山形県鶴岡市）
 - 7月7日（日）～8日（月）
 - 10月22日（火）～23日（水）
 - 2025年2月11日（火）～12日（水）
- [3] 障害のある人と楽しむ、表現のためのテクノロジー入門ワークショップ
2025年2月23日（日） キャンパスプラザ京都（京都府京都市）

③社会連携の促進：展覧会・シンポジウムの開催および冊子制作

1) 展覧会

2024年度（令和6年度）の成果を社会に発信・共有するための展覧会を開催。

- ・時期／場所 2025年3月19日（水）～23日（日）
シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]（東京都渋谷区）

2) シンポジウム

2024年度の成果を社会に発信・共有して振り返りと考察するためのシンポジウムを開催。

- ・時期／場所 2025年3月19日（水）21日（金） 167名
シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]（東京都渋谷区）

3) 冊子

Art for Well-being プロジェクトを通して得られた知見を、二つのパート「関わった人たちの声を聞く」「Art for Well-being ってなんだろう？」に分けて伝える冊子を作成。

- ・時期／場所 2025年3月19日（水） オンラインPDF

3) ろうきんプロジェクト 2024 「エイブル・アート SDGs プロジェクト」

ARTS in CO-OP 生活とアートの協同

たんぽぽの家、近畿ろうきん、ならコープ、奈良県生協連の4団体で実行委員会を組織。日常×アート、地域×障害者をつなげることにより、より生き生きとした日常と、誰一人取り残すことなく安心して暮らせる地域社会の実現に寄与することをめざした。

会場近隣の福祉施設で活動するアーティストがコープ七条を訪問して、売り場やバックヤードを見学し、出会ったものを題材に作品に仕上げ展示する ARTS in CO-OP 展をメインの取り組みとした。その他会期に先駆けて、店内での公開制作や奈良市内複数店舗において店長等が選んだ障害のある人の作品を展示するプライベート美術館を実施した。会期初日は店内でオープニングセレモニーを開催、マルシェやワークショップを行った。また、取り組みの過程を納めた動画「ARTS in CO-OP チャンネル」を店内で流し活動の周知をはかるとともに、コープの職員や組合員理事への学習会等を実施し障害のあるアーティストとの交流の機会も設けた。

- ・主催 近畿労働金庫
- ・企画運営 エイブル・アートSDGsプロジェクト2024 実行委員会（奈良県生活協同組合連合会、市民生活協同組合ならコープ、一般財団法人たんぼぼの家、近畿労働金庫）
- ・会期 11月16日（土）～12月8日（日）
- ・メイン会場 コープ七条
- ・サブ会場 コープ朱雀、コープ学園前、コープおしくま、コープいこま
- ・参加アーティスト 中村清司（ひまわりの家）、福峯美砂子（ひまわりの家）、松下広実（みんなの広場らんまん）、山本敦貴（Good Job！センター香芝）、青木 優（アートセンターHANA）、風香（アートセンターHANA）、松村賢二（アートセンターHANA）

4) 奈良県内でのアートプロジェクトの実施

奈良県内と全国の障害のある人のアートを通じて、地域の芸術文化の育成と文化力を高め、県内外に広く発信することを目的としている。今年度は、「プライベート美術館」「ビッグ幡 in 東大寺」「ビッグ幡 in 薬師寺」を軸に6つの事業を実施。

公募プログラムとして定着してきた企画を深め、周知することをめざして継続している。

（主催：奈良県みんなでのたのしむ大芸術祭実行委員会 奈良県）

① プライベート美術館

奈良県内の障害のある人のアートを、まちなかの店舗や社寺などで楽しむ「プライベート美術館」を実施した。

今年度、新たにこのプロジェクトに参加をしたいという新規店舗などは9箇所あった。船橋商店街の8店舗と、五條市役所の市民スペースでも展示をおこなった。五條市役所では地域のイベントと重なり、多くの方に作品を見てもらうことができた。継続参加してもらえれば、中和地区で重要なスポットになってもらえると思う。

▶プライベート美術館 お見合い展示

- ・会期 7月31日（水）～8月2日（金）

- ・会場 東大寺総合文化センター 小ホール
- ・応募作品数 533 点 (前年 437 点 前年比 121.9%)
- ・応募者数 299 名 (前年 302 名 前年比 99.0% 合作者の人数もカウント 内個人作家 24 人)

▶プライベート美術館

- ・開催期間 10月19日(土)～11月10日(日)
- ・開催場所 近鉄奈良駅周辺のカフェやショップ、県内の社寺や公共施設、道の駅など
- ・会場数 80カ所(前年比:101.2%)
- ・展示作品数 334点(前年320点 前年比104.3% 全応募作品に対する展示率67.7%)
- ・展示者数 219名(前年230名 前年比95.2%)
- ・来場者数 3,910名(前年3,428名 前年比114.0%)

② ビッグ幡 in 薬師寺

全国から障がいのある人の作品を募集して幡(ばん)に仕立て、奈良県の象徴的な存在のひとつである薬師寺で掲示をした。

2023 度を実施した「ビッグ幡 in 東大寺」のデザインとして採用された 64 作品の中から、48 作品を奈良県みんなでのしむ大芸術祭実行委員会と協議の上決定。幡を 8 本製作し開催した。掲揚される場所が回廊の近くだったため、車椅子の人でも鑑賞しやすかったと思う。

- ・開催期間 9月8日(金)～11月30日(木)
- ・開催場所 薬師寺境内
- ・候補作品数 64点(県内26点 県外38点)
- ・デザイン使用作品数 48点(県内18点 県外30点)
- ・来場者数 32,905人

③ ビッグ幡 in 東大寺

「花鳥風月」をテーマに、全国より集まった公募作品から 64 作品を 8 本の幡にデザインし、東大寺大仏殿前に掲揚した。11月3日(日・祝)は、平城京天平行列「東大寺参詣」がおこなわれ、華やかな衣装をまとったみなさんの行列と、ビッグ幡の鮮やかさが相まって、荘厳な空気が溢れていた。応募者本人や関係者 15 組ほどが会場を訪れ、東京から来られた方もいた。

- ・開催期間 11月2日(土)～10日(日)
- ・開催場所 東大寺大仏殿前
- ・応募作品数 総数 579 点 (前年 557 点 前年比 103.9%)
県内 244 点 (前年 239 点 前年比 102.0%)
県外 335 点 (前年 318 点 前年比 105.3%)

- ・DMG MORI やまと郡山城ホール ホワイエ まほろばあいのわコンサート会場
会期 11月30日(土)
- ・来場者数 2,914人

5) 可児市文化創造センター「エイブルアート」展企画運営

「清流の国ぎふ 国民文化、障害者芸術文化祭」に合わせて例年7月から10月へと時期を変更。これまで全国各地の障害のある人たちの表現活動を紹介してきたが、今回はたんぼぼの家アートセンターHANAの活動を中心に、アート作品だけではなく、創作の環境や道具などにも価値を見出すような展示を実施した。

エイブル・アート展～表現が生まれるまえとあと～

- ・会期 10月30日(水)～11月6日(水)
- ・会場 可児市文化創造センター(ala)美術ロフト
- ・協力 たんぼぼの家アートセンターHANA

6) かねでんコラボ・アート21 特別協力

昨年度に引き続き、U-18部門を設置し、新規応募者を増やす試みに取り組み、これまで350～400点ほどだった応募作品数が500点に回復した。入選作品展は昨年度と同じグランフロント大阪ナレッジキャピタル1階にて実施。展示プランニングにも関わり、多くの人たちがコラボアートの存在を知るきっかけを作った。

公開展示会

- ・会期 2025年2月18日(火)～24日(月)
- ・会場 グランフロント大阪ナレッジプラザ

7) Good Job!プロジェクト

1) NEW TRADITIONAL プロジェクト

ニュートラの学校/福祉と伝統工芸をつなぐ人材育成と仕組みづくり

参加者が福祉と伝統工芸をつなぐ企画を立案する「ニュートラの学校実践編 in 京都」を実施した。亀岡や京都市内でのフィールドワーク、オンライン講座のほか、中間発表会や相談会、アドバイザーからのコメント等を通して参加者の企画立案をフォローアップした。また、これまでのニュートラで製作してきた商品を展示販売会に出展し販売や活動普及の可能性を探った。

(助成：公益財団法人パブリックリソース財団 野村グループみらい助成プログラム基金)

- ・アドバイザー 井上愛 (NPO 法人 motif 代表)、高橋孝治 (デザイナー/高橋孝治デザイン事務所)、原田祐馬 (UMA / design farm)

▶フィールドワーク&エクササイズ

- ・日時 2025年1月10日(金)、1月11日(土)
- ・会場 Circular Kameoka Lab、堤浅吉漆店など
- ・講師 浅野翔 (デザインリサーチャー)
- ・コーディネーター 山崎伸吾 (ディレクター/キュレーター)、並河杏奈 (一般社団法人Fogin/Harvest Journey Kameoka 事務局)

▶オンライン中間発表&企画検討会

- ・日時 2025年2月21日(金) 2月22日(日)

▶公開企画発表会

- ・日時 2025年3月15日(土)
- ・会場 Fabcafe Kyoto

▶DIALOGUE 京都工芸見本市への出展

京都のホテルで毎年開催されている、工芸の見本市に出展した。Good Job!センター、鳥取の川崎富美さん、愛知県常滑市の高橋孝治さんが現在作っている商品を展示し、それぞれの福祉×工芸の取り組みを紹介。会期中には主催者の事業として、「福祉と工芸を繋ぐ、ニュートラディショナルの実験と実践」と題したトークにも参加した。

- ・日時 2025年3月12日(水) ~15日(土)
- ・会場 ホテルカンラ京都

2) Good Job! Travel

全国各地で実践される、あたらしい生き方、はたらき方に挑戦する福祉の現場を訪れ、そこに関わる地域や人の魅力を丸ごと体験するツアーを企画、運営、実施するプロジェクト。2024年度は活動休止状態であった。

3) NFT プロジェクト「Good Job! Digital Factory」

障害のある人や就労を支援する福祉事業所などが NFT やブロックチェーン技術を活用して仕事を生み出しはたらく選択肢が増えること、また、これまで福祉に接する機会がなかったクリエイターとの協働を進めることを目的に、訪問勉強会、プロジェクトの立ち上げ支援、ガイドブックを作成する。

(日本財団「就労支援施設における障害者アート事業の NFT 活用推進」)

① 就労支援施設での訪問勉強会開催

NFT アート制作・販売やデジタルコミュニティ運営のノウハウなどを紹介し、当該取り組みに関心のある施設との交流をした後に、立ち上げ支援先を検討した。

▶応募団体 14 件のうち 3 カ所を選定

- ・株式会社リテラル アップル梅田（大阪市北区） /8月20日
- ・一般社団法人暮らしランプ こきゅう+（京都府乙訓郡大山崎町） /8月21日
- ・合同会社アンドエス カララ（静岡県三島市） /9月4日

② 就労支援施設 1 カ所へのデジタルコミュニティ立ち上げ支援

立ち上げ支援先を 1 カ所に決定し、NFT アート制作・販売、デジタルコミュニティ運営の伴走支援を実施して、NFT×就労支援コミュニティを拡大した。

- ・伴走支援先 一般社団法人暮らしランプ こきゅう+
- ・時期/場所 9月～2025年2月/オンライン 13回
- ・NFT 販売 3月7日 宇宙植物×ボクセルアートをテーマにした NFT アートを発行

③ 上記②の支援を通じたガイドブック作成・公開および報告会開催

(1) 福祉×NFT シンポジウム

NFT を新しい地域コミュニティの形成、文化の継承、障害のある人の仕事づくりに活用している事例や選択肢を知り、今後の可能性を探求していくシンポジウムを開催。

- ・会期 2025年3月9日
- ・場所 京都経済センター（京都市下京区）104名

(2) 福祉施設が自主的にデジタルコミュニティ立ち上げるためのガイドブック作成

- ・現在制作中

8) 生駒市インクルーシブアートワークショップ運営業務（新規）

生駒市生涯学習課からの依頼により、障害のある人、ない人が参加できるアートワークショップの運営を受託。Good Job!センター、アートセンターHANA の協力を得ながら 2 つの異なるワークショップと成果報告の展覧会を実施した。

1) ちがいを楽しむワークショップ

アートセンターHANA の宿利真希さんが講師となり、日頃制作している「好きなものを段ボールで表現する」作品とプロセスを紹介。生駒市在住の町矢さんが地域の魅力のを見つけ方についてレクチャーし、その後、参加者自身がそれぞれの好きなものや地域にまつわるテーマで作品制作をした。

- ・会期 2025年1月8日（土）
- ・講師 宿利真希（アートセンターHANA）、町矢真美（ひらく学校）

2) ちがいを生かすワークショップ

Good Job！センター香芝で実施している、創造性をいかした障害のある人の仕事づくりを紹介。前回のワークショップで制作した作品を版に起こし、Tシャツにスタンプすることで参加者全員が協力しあったものづくりをした。

- ・会期 2025年2月8日(土)
- ・講師 Good Job！センター香芝メンバー、スタッフ

3) みんなでふれる！つくる！こえる！ちがいを超える展覧会

1回目と2回目のワークショップで作成した作品と制作のようすを伝える成果報告展を実施した。会期中はGood Job！センターメンバー、スタッフによるハンカチづくりワークショップを実施。展覧会来場者も制作体験をする機会をつくった。

- ・2025年2月20日(木)～24日(月・祝)

※会場はすべて生駒商工会議所別館

9) だれもがみんなアーティスト事業ワークショップ及び成果発表展示開催業務(新規)

なら歴史芸術文化村にて、アートワークショップ開催業務を企画運営した。障害のある人もない人も気軽に創作活動に参加する機会をつくることで、多様な背景を持つ参加者同士の相互理解を促進し、アート活動をとおして他者への配慮の心を育む社会をつくることをめざした。

全体のテーマをオリジナル影絵芝居の創作と上演とし、ワークショップの前半3回は影絵のキャラクターづくり、後半の3回は影絵芝居づくりとし、ものづくり、ストーリーづくり、音楽、演劇など、多様な表現を体験できるプログラムで構成した。

- ・講師 佐藤拓道(たんぼぼの家アートセンターHANA)
大井卓也(財たんぼぼの家)

ワークショップ① [オープンアトリエ部門]

影絵芝居の舞台美術づくり」参加者と文化村周辺を散策し、地域にちなんだキャラクターや物語を考えた。

- ・会期 9月28日(土)、10月19日(土)、10月20日(日)
- ・参加者 2人(3回延べ人数)

ワークショップ② [パフォーマンス部門]

舞台美術から影絵作品を考えて上演する」前期で制作したキャラクターをつかって物語をつくり、影絵の仕組みを理解しながら音楽を考えたり演出を考え、最終日に上演した。

- ・会期 11月9日(土) 11月30日(土) 12月8日(日)
- ・参加者 46人(3回延べ人数)

成果発表展

前期・後期で制作した影絵人形と、後期で発表したオリジナル影絵芝居の上演動画を上映した。

・実施日 2025年1月17日(金)～26日(日)

・来場者数 181人

※会場はすべてなら歴史芸術文化村にて実施した。

教育普及・人材育成

1) 福祉をかえる「アート化」セミナー

今年度の実施については、他事業とのバランスをみながら実施を見送った。

調査研究・基盤整理

1) 障害者芸術文化活動普及支援事業 (厚生労働省)

障害とアートの相談室

本年度はこれまでの事業形態を見直し、より各地域の中間支援団体(支援センター)のバックアップに注力した事業を行った。例年実施してきたワークショップや舞台芸術に関する取り組みについても、各地域の支援センターとの協働のもと実施できるよう、形を変えながら実施した。

(助成：令和6年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業)

おもな事業

① 支援センターへのバックアップ事業 (ラウンドテーブル、出張相談会)

近畿地域の中でも、特に設立されてからまだ年数の浅い支援センターや活動に課題を抱えている支援センター(京都、奈良、兵庫、和歌山)を対象にバックアップ事業を行った。

1) 障害とアートのラウンドテーブル

奈良、和歌山の支援センターの課題として、地域の福祉団体、文化団体との連携が図れていない、ネットワークを構築できていない、という声が聞かれた。そこで、この2県を対象に、行政の障害福祉関係部署、文化事業関係部署の担当者に加え、地域でアート活動を行っている福祉施設の代表者及び美術館や図書館といった文化団体の代表者を招き、取り組みや課題に関し共有し、議論する場を設けた。

▶和歌山

- ・会期 11月21日(木)
- ・会場 和歌山県民文化会館 401会議室

▶奈良

- ・会期 2025年3月6日(木)
- ・会場 たんぽぽの家アートセンターHANA

2) 出張相談会

京都、奈良、兵庫、和歌山の支援センターの課題として、地域の中で活動を知られていない、アート活動に関する相談支援を受けきれていない、という声が聞かれた。そこで、この4府県を対象に、たんぽぽの家スタッフが現地へ赴き、各支援センターが実施するイベント等の一隅にブースを設け、支援センタースタッフとともにその場で相談事を聞き受ける出張相談会を開催した。

▶開催日・会場

- ・京都 11月30日(土) / 京都とおきの芸術祭と合わせて実施
- ・奈良 12月3日(火) / 奈良県障害者作品展と合わせて実施
- ・兵庫 2025年2月27日(木) / 美術工芸作品公募展と合わせて実施
- ・和歌山 2025年3月26日(水) (実施予定)

② パフォーマー発掘事業「S-1グランプリ」

近畿ブロックはじめ、全国的に課題になっていた、障害のある人の舞台芸術活動に関するサポートに取り組む事業として、例年は「鹿の劇場」というショーケース公演を開催していたが、今回は新たなパフォーマーにスポットライトを当て、また、これまでにないパフォーマンスの可能性を検証することを目指し、公募型のパフォーマンス事業「S-1グランプリ」を開催した。5分以内、5名以内のジャンル不問のパフォーマンスを8~9月に募集し、20名からの応募をいただき、そこから審査員による審査を通過した8組のパフォーマーが、12月に開催された「グランプリ決定ステージ」に出場。審査員や観客による審査を行い、表彰を行った。

実施にあたっては各府県の支援センターに募集の広報の協力をいただいたほか、大阪の支援センター、ビッグ・アイの鈴木京子さんに審査員として関わっていただいた。

▶グランプリ決定ステージ

- ・会期 12月6日(金)
- ・会場 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル きたしんホール

③ 障害とアートの研究会の実施

3年目となる継続事業の「障害とアートの研究会」については、今年もケアや福祉に携わる実践者たちが、自身の活動を振り返り、深め、言語化していくことをめざし、オンラインで開催した。昨年度は参加メンバーによる研究会を重ね、最終的な成果物としてZINE(小冊子)の作成を行ったが、本年度もその基本のスタイルは踏襲しつつ、具体的に執筆についてアドバイスをを行うなど、より充実した体制で取り組んだ。また、アートミーツケア学会 2024年度大会・総会(於:九州大学)の会場でも本研究会に関する発表を行うなど、活動の広がりを見せた。

▶開催日

- ・説明会 10月15日(火)
- ・第1回 11月6日(水)
- ・第2回 11月27日(水)
- ・第3回 12月18日(水)
- ・第4回 2025年1月29日(水)

④ 障害のある人もない人も参加できるアートスペース オープンアトリエ

継続して開催してきたオープンアトリエに関しては、現在の近畿地域におけるニーズやアトリエ経営の現状を踏まえ、2つの実験的な取り組みを行った。

1) 見える人、見えない人、見えにくい人の対話型鑑賞ワークショップ/意見交換会

これまで行ってきたオープンアトリエは主に創作活動をテーマとしたものだったが、障害のある人の美術鑑賞に関する取り組みが少ないという現状を受け、視覚障害のある人との美術鑑賞ワークショップを視野市立美術博物館で開催した。講師には視覚障害のある美術家・光島貴之さんをお招きし、また芦屋市立美術館の協力のもと、京阪神間の美術館ネットワーク団体にも声をかけ、様々な美術関係者に参加いただいたほか、兵庫県の支援センターとも連携し、県内の視覚障害者協会等にも働きかけを行った。また、ワークショップ後には視覚障害のある当事者と、支援センターの職員、京阪神間の

美術館関係者による意見交換会を開催し、障害のある人の美術鑑賞に関する取り組みや課題の共有を行った。

▶開催日・会場

- ・会期 11月12日(火)
- ・会場 芦屋市立美術博物館

2) オープンアトリエ 2024～工作ワークショップ オリジナルのお面をつくろう！

地域のなかでの継続した創作の場づくりを考えるための実験として、2年前から、県内の企業であるリコージャパン(株)奈良支社の方々と取り組んできたオープンアトリエだが、本年度はそのネットワークをさらに広げるべく、県内の様々な企業に声掛けのうえ、協働してのアートワークショップを開催した。具体的には、企業から端材などの廃棄物を提供いただき、それを素材として創作ワークショップを行ったほか、企業の社員にもサポートスタッフとしてワークショップに参加いただき、交流や学びの場づくりに取り組んだ。また講師には三宅町の福祉施設・ひまわりの家のみなさんをお招きし、奈良県内でのネットワークづくりを目指した。なお、企業への声かけに関しては奈良県の支援センターに協力いただいた。

- ・会期 2025年3月8日(土)
- ・会場 奈良市ならまちセンター 1F コトナラボ
- ・共催 リコージャパン(株)奈良支社
- ・協力企業 アサダスポーツ株式会社 桶谷ホールディングス、株式会社大成紙業工業所、タビオ奈良株式会社

⑤ その他の事業

その他、近畿地域の障害のある人のアート活動の支援に資する事業として、地域内の各支援センターを対象にした研修会や、アンケート・訪問による障害のある人のアート活動に関する現状調査、相談の受け付けなど、基礎的な業務を行った。

ケアする人のケアプロジェクト

「ケアする人が心身ともに健康であってはじめて他者を気づかう支え合いの社会が実現できる」との考えから、1999年に「ケアする人のケア・サポートシステム研究委員会」を立ち上げ、調査研究並びに各地でセミナーを開催してきた。

1) 住友生命福祉文化財団事業

住友生命福祉文化財団と協働で、2005年から日本各地で開催してきた「ケアする人のケアセミナー」は、20回の節目を迎えた鎌倉大会をもって終了した。また、2023年度に大阪で実施した「こどもみらいフォーラムおおさか」も同様に終了した。

18年、20回にわたる「ケアする人のケアセミナー」については、これまでの実績等をデータにまとめるとともに、「『ともに生きる』先にある生の実感 ～ケアする人のケアセミナー20回～」としてレポートを作成し提出した。

2) なら介護の日 2024

厚生労働省が、11月11日を「介護の日」と制定したことを受けて、2008年から啓発イベントとして「なら介護の日」を毎秋実施してきた。しかし、22の団体が関わり取り組んでいるにもかかわらず、集客につながらず盛り上がり欠けるため、2024年度は、ホール開催は見送り、方向性を探る一年とすることとした。

一方で、ポスターを作成し県内各種団体の啓発を依頼、また、クリアファイル、メモ帳、ボールペン、ティッシュといった啓発グッズを制作、配布し、啓発活動を行った。

わたぼうしプロジェクト

1975年に古都奈良に誕生し、半世紀を迎えるロングランプロジェクトである。障害のある人たちの歌や語りを通して、夢と希望に満ちた地域社会、平和と友好のある国際社会の実現をめざして活動している。

1) 第49回わたぼうし音楽祭

昨年度に続き、やまと郡山城ホールで「第49回わたぼうし音楽祭」を開催した。ホームグラウンドである奈良県文化会館が改修工事のためしばらく使用できず、来年の50周年記念音楽祭の開催も同ホールに決まっている。「わたぼうし大賞」には、千葉県松戸市に住むかけるなうじーによさんが作詩・作曲・歌唱した「ボ

クノウタ」が選ばれた。自閉スペクトラム症を担い、生きづらさを感じる日々をギターの弾き語りでストレートに歌い上げた作品だった。

ゲストに迎えた手話パフォーマンス演劇劇団「空の旅団（たびだん）」、特別ゲストの韓国・釜山「EASYTOGETHER」、結成 30 周年を迎えた「アゴラ太鼓」の和太鼓演奏は、障害や国境といったあらゆるハンディを超えて、ともに生きることの素晴らしさをパフォーマンスを通して伝えてくれた。

- ・日時 8月4日（日）
- ・会場 DMGMORI やまと郡山城ホール・大ホール
- ・入場者数 約1,000人

2) わたぼうしコンサート&語り部

「わたぼうし音楽祭」で生まれた歌は、「わたぼうしコンサート」として旅立ち、日本各地で歌われ、多くの人たちと心を響かせ合っている。コロナの影響で、ほとんどの公演が中止、延期となり復活の兆しすら見えなかったが、今年度は開催案内を県内の小・中・高等学校に送付したところ、若干の反応が寄せられた。

- ・5月3日（祝） 大阪／中之島まつり
- ・6月8日（土） 奈良／Good Job！スーパーマーケット
- ・8月4日（日） 奈良／第49回わたぼうし音楽祭
- ・8月18日（日） 宮崎／わたぼうし宮崎コンサート
- ・9月1日（日） 長崎／わたぼうしコンサートながさき 2024
- ・9月14日（土） 奈良／全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
- ・9月22日（日） 奈良／音楽劇団あかねこフレンズミュージカル友情出演
- ・10月27日（日） 岐阜／西光寺音楽会
- ・10月31日（木） 奈良／あすかの小学校
- ・11月3日（日） 東京／松兼功追悼コンサート
- ・11月15日（金） 奈良／大成中学校
- ・11月19日（火） 奈良／治道小学校
- ・12月7日（土） 奈良／わたぼうしかしはらコンサート
- ・12月12日（木） 奈良／葛小学校
- ・12月19日（木） 奈良／国保中央病院 Xmas ロビーコンサート
- ・1月30日（木） 奈良／憲法絵本と語りの会 in コープ自然派
- ・2月22日（土） 奈良／華野乃会やすらぎコンサート
- ・3月16日（日） 大阪／日韓交流会コンサート
- ・3月30日（日） 奈良／佐保川さくら・音楽会

ネットワーク

1) エイブルアート・カンパニー

障害のある全国のアーティストと契約を結び、著作権活用を軸に、企業などの団体との連携を生み出し、作家のしごとを生み出すエイブルアート・カンパニーは本年度も継続して事業を実施した。

特徴的だった取り組みとしては、トヨタ自動車株式会社との協働による、社員用バスのラッピングへの採用といった、これまでにあまりなく、また規模の大きい使用があった。また、昨年度採用された菅公学生服株式会社との取り組みに関しては、「高校生ボランティア・アワード」の賞品としてエイブルアート・カンパニーの作品を使用したTシャツが採用されるなど、更なる広がりを見せている。

また、活動の広がりという観点からは、株式会社クリエイティブマンプロダクション、および株式会社フェリシモと取り組んでいる寄付付き商品（基金）の売り上げを、能登半島地震による被害を受けた障害のある人のアート活動を行う団体に関する訪問調査の費用や、各団体への寄付金として活用するといった取り組みを行った。

その他事務局の動きとしては9月に14期の新規作家4名の登録を行い、登録アーティストは全122名、登録作品は12,945点となった。作家との確認や登録作業に時間を要してしまい、例年より登録に時間がかかってしまったという課題はあるものの、新規4作家のデビュー（初採用）は例年よりも早く創出することができた。

2) アートミーツケア学会

2023年度より開始された新体制の任期が本年度までである。今年度は共同代表や理事によるトーク、研究会のほか、オンラインセミナーの販売等、昨年度から議論してきたことを実現した。セミナー・研究会、広報、オンラインジャーナル編集、交流促進、といった理事によるチームを設け、理事・共同代表・事務局の役割分担を模索してきた。それにともない、メールマガジン「アート見つけや通信」の月1回の配信や、年次大会広報動画の配信、Instagramの開設など、情報発信や共有が充実した。また、九州大学での年次大会では参加者の交流促進を目的とした理事発案の企画を実施したり、学会や理事の活動紹介動画の上映などを行った。オンラインジャーナルはvol.16を発行し、論文2本、実践報告1本、エッセイ1本を掲載した。

アートミーツケア学会 2024年総会・大会 **いケアのなかにあるアート?**

- ・日時 12月14日(土) 15日(日) *13日(金)には前夜祭を実施
- ・会場 九州大学大橋キャンパス

アートミーツケア学会オンライン・セミナー 境界をまたぐ〈あそび〉と創造

・第1回「医療現場のアート」

講師：山口（中上）悦子

・第2回「ダイバーシティーダイバーシティ？ インクルージョン？ なんで、どれも英語やねん??」

講師：ほんま なほ

・第3回「参加型の音楽活動—コミュニティ・ミュージックをめぐって」

講師：沼田 里衣

・交流企画「“扉”に気づく～点と点をつなご」

ファシリテーター：マニシア（ダンスアーティスト， ダンスムーヴメントセラピスト

会期 12月14日（土）*年次大会内の企画として実施